

編集後記

この物性研だよりの研究紹介では、プレスリリースなどを行った成果を主体に報告させて頂いております。一方で、やはり基礎研究においては、これらの成果に対して直ぐに評価が上がるものではありません。

来年度に大学法人評価の中間評価が行われることは、大学関係者の方にご存じかと思えます。その評価には研究業績もあるのですが、優れた成果の証明として客観的な評価を添えることが条件になっています。ただ、中間評価となると、この4年間で評価まで上がっている成果をとなり、物性研だよりでご紹介している成果でも間に合うケースは少なくなります。担当者としては口惜しいところで、現状の評価のタイムスケールでは、依然として基礎研究においてはハンデが大きいです。

最後に、個人的なことでもあり恐縮ですが、談話会記事で紹介されている講師の東大生産研の石井教授は、私の学生時代のサッカー部の同期です。ちなみに、彼はキーパーで、私は試合中に後ろから良く怒鳴られました。今後は、強磁場での共同研究が進む予定です。全く予期していなかったこともあり、縁というのは不思議なものと感じるこの頃です。

鈴木博之